

氏名	曾 我 浩 之
学位の種類	医学博士
学位授与番号	乙 第 1840 号
学位授与の日付	昭和62年 9 月30日
学位授与の要件	博士の学位論文提出者（学位規則第 5 条第 2 項該当）
学位論文題目	直腸癌の超音波診断に関する基礎的・臨床的研究 第 1 編 直腸癌の超音波組織特性に関する研究 第 2 編 直腸内リニア走査法による直腸癌の超音波診断に関する 臨床的研究
論文審査委員	教授 折田薫三 教授 青野 要 教授 関場 香

学位論文内容の要旨

客観的かつ正確な直腸癌の術前進行度診断および諸機能温存手術の適応決定を目的として、直腸癌症例を対象として超音波検査の有用性を基礎的・臨床的に検討した。

第 1 編では、基礎的に直腸癌の超音波組織特性に関して検討した。直腸癌切除症例 81 例の固定標本を対象に、後方散乱波の強度（エコーレベル）をパラメータとして、コンピュータ処理により超音波画像を定量的に解析し、直腸癌組織の音響学的特性を明確にした。癌部と正常粘膜部のエコーレベルの比は平均 0.7790 ± 0.0838 で、癌部の方が有意に低かった（ $p < 0.01$ ）。また、エコーレベルは固有筋層が最も低かった。

この結果をふまえ第 2 編では、下部直腸癌 23 例を対象として、直腸内リニア走査法を用いて臨床的に直腸癌の壁深達度診断およびリンパ節転移診断における超音波検査の有用性を検討した。固有筋層を指標として壁深達度診断は可能で、82.6% の正診率を得た。リンパ節転移診断でも 82.6% の正診率を得た。

超音波検査は、直腸癌の術前進行度診断において非常に有用であり、本法で Dukes A と診断した症例が機能温存手術の適応と考えられた。

論文審査の結果の要旨

本研究は 2 編から成り、第 1 編では直腸癌切除標本を用いて超音波画像を解析し、癌部は正常粘膜に比してエコーレベルが有意に低いこと、さらに固有筋層のそれが最も低いことを明らかとし、第 2 編では術前直腸内リニア走査法により、固有筋層を指標とした壁深達度・

リンパ節転移の診断が80%以上可能であり，本検査法は直腸癌に対する機能温存手術の適応決定に有用なことをしめした。これらは直腸癌手術の適応決定上，重要な知見を得たものであって，本研究者は医学博士の学位を得る資格ありと認める。